

主筆 牧野富太郎

植物研究雜誌 第八卷 第六號 (通卷第七十六號)

昭和七年 (1932) 六月十五日
東京 津村研究所出版部 發行

○植物採集行進曲

牧野富太郎

獨吟又合唱、高歌又低調、人々大ニ唄フベシ、歌ヲ謠ヒ歌ヲ聽ケバドンナ人デモ感情ヲ動カサヌ者ハナイ、或ハ喜ビ或ハ怒リ或ハ哀シミ又或ハ樂シム、必然ニ感情ノ搖ギヲ覺ユルニ觀レバ歌ノ人間ニ無カルベカラザル事以テ察知スベキデアル、歌ニハ鬼神モ感泣シ天地モ順應スル、古來何レノ地何レノ邊苟モ人間ノ棲ム處歌ノ聲ヲ聞カヌ郷トテ無イノハ豈ニ亦偶然ナラン哉デアル、歌ハ感情ノ流露スルモノ感情ノ人間ガ歌ヲ謠フハ自然デアリ又當然デアル、歌ノ人間ニ盛ンナル宜ベナル哉ト謂フベキダ、歌ノ力ヤ宏大ニシテ其極ヲ知ル莫シ、吾レ人大ニ謠ヒ大ニ唄フテ興ヲ遣ルベシ、是レ今日吾等ノ間ニ植物採集行進曲ノ作ラレシ所以

○植物採集行進曲

元歌三首 常谷幸雄
右修正 本田正次
末二首 牧野富太郎

根掘り片手に胴亂下げて

今日は楽しい採集よ

蕾軒獨語（其四十七）

採った千種の優しい花も
やがて知識の實を結ぶ

二

國の爲なら草木も採れよ
君は一本僕二本
つもりつもって腊葉の山が
末は御國を輝やかす

三

異國に誇る草木の數よ
すべて知らねば國の辱
心一つに力を合はせ
調べ上げましゝ我がフロラ

四

多き草木を原料に使ひ
産業工業盛んに起こし
民の暮しを一層善くし
國の富をも殖ましゝ

五

草木可愛の心をひろめ
愛し合ひましゝ吾等同士
思ひ違りさへこの世にあらば
世界や平和で萬々歳

○蕾軒獨語（其四十七）

蕾軒 朝比奈泰彦

○小笠原島ノ粉果地衣ニ新種

On two new coniocarpous lichens from Ogasawara-jima.

昭和五年七月中井猛之進教授ノ引率セル東京帝大理學部植物學科學生小笠原島採集隊ニ參加セル藤川福次郎君